



宮地和紙の魅力発信

「金波楼」で展示会

八代の市民グループが企画

八代市宮地地区に約40年前から伝わる「宮地手すき和紙」の展示会「宮地和紙に暮らす店」が、31日（木）まで同市日奈久上西町の旅館「金波楼」のギャラリーで開かれている。27日（日）と2月23日（土）には、宮地の紙すき工房や水路を訪ねるまち歩きイベント「宮地紙漉きの里紙と水辺のくらしを歩く」もある。いずれも市民グループ「八代宮地紙漉きの里を次世代につなぐ研究会」の主催。

紙すきの里巡りも

昨年（2018年）のまち歩きイベントの様子。宮地地区には和紙制作に欠かせない水路が縦横に走っている



の現役職人となった矢壁政幸さん（74）の和紙を展示。崇城大芸術学部デザイン学科の学生たちが宮地和紙で作成したアクセサリやラ

ンプ、宮地和紙を使った県伝統工芸品「来民洩うちわ」なども並ぶ。一部は販売もしている。

20日（日）午後1時半からは同旅館で、宮地和紙による「ミニ和とし本」作りのワークショップがある。参加費千円（コーヒープ付き）。定員10人。

まち歩きは両日とも午前9時～正午で、8時50分までに八代神社（妙見宮）の鳥居前集合。工房ではがきの紙すき体験をする。参加費千円。申し込みは1回目（20日）、2回目（2月15日）までで、各回定員16人になり次第締め切る。

申し込みは研究会の磯田節子代表 090（3603）0688。

（宮上良一）